

No.2004

4月3日例会	プログラム	「検視について」	渡邊 正俊君
4月10日例会	プログラム	「ゴルフと桜について」	後楽ゴルフクラブ 支配人 太田 久直様
4月3日のメニュー	・ローストビーフ ・キスと白魚の天ぷら ・ざる茶そば ・竹の子ご飯 ・桜もち ・コーヒー		

前回(3月27日)例会記録

出席報告	会員総数	32名	出席者数	28名	欠席者数	4名	出席率	87.50%	前回補正率	-
	前回補正者	-								
	欠席者	林君 井上君 仲田君 山田(次)君								

会長挨拶

今月14日(土)にお礼参りとしてバスツアーにて高野山にお参りしてきました。皆様にも記憶があると思いますが、この日はかなりの雨の日でした。晴れ男を自称する私にとって辛い一日かなと思えました。バスの中で私は格言を2つ思い浮かべました。お話し致します。

バスツアーのお参りの時は、先達(せんだて)が、必ず弘法大師にこのお参りの無事を祈りますが、参加した中で1人の人が何とスポーツ紙をこれみよがしに広げ、読んでいました。その人は、私の席の2席前の人でしたが、目に付き、それ以後、気になり、それとなく見ておりましたが、聖地での煙草は無遠慮に吸うは、バスの中での行動も他人への配慮に欠け、あまりかんばしくなかったように思いました。そこで、私としては格言の一つ「一事が万事」そしてもう一つは「人のふりみて我振り直せ」この二つが頭に浮かんできました。即ち、この人はツアー中時間にして約13時間は私の師であり、見習うべからざる人だと思ったわけです。人は見えています。自分に恥じない行いをしたいものだと思えました。

会長報告

- ・3月15日(日)に開催された玉野市手話サークル第33回総会に出席致しました。
- ・前回ご紹介を致しました新入会員候補者の義若智康様につきまして、異議、申し立てがありませんでしたので加入の勧誘を進めます。

幹事報告

- ・鳥居ガバナ-事務所より以下の書状が届いております。
  - (1) 近藤インターネット・雑誌・広報委員長宛に地区雑誌・広報委員長会議への出席に対するお礼状。
  - (2) 拉致被害者家族支援義援金のお願い(募金の締切日:2009年4月24日)。
- ・財団法人ロータリー米山記念奨学会より「ハイライトよねやま109号」が届いております。
- ・財団法人米山梅吉記念館より以下の冊子と書状が届いております。
  - (1) 館報 Vol.13
  - (2) 春季例祭のご案内
  - (3) 全国一人100円募金運動と賛助会入会及び継続払い込みのお願い
- ・4月のロータリーレートのお知らせが届いております。1ドル=98円
- ・たまの・港フェスティバル実行委員会より「第13回たまの・港フェスティバル」協賛金についてのお願いが届いております。
- ・玉野手話サークルより「手話だより第288号」が届いております。
- ・玉野市交通安全対策協議会より「玉野交通安全推進大会」の開催のご案内が届いております。
 

日時:平成21年4月6日(月)10:00~ 場所:すこやかセンター
- ・他クラブの週報・例会変更通知は回覧させていただきます。

## クラブ協議会のご案内 東川 清隆 次期会長

本日、クラブ協議会開催のご案内を配布させて頂きました。次年度葛尾ガバナーの公式訪問が7月24日という事で、例年より早くなっております。したがって、クラブ協議会、計画書の作成が約1ヵ月前倒しで行う必要があります。4月24日に協議会を行いたいと思いますので、ご出席の程、宜しくお願い致します。

クラブ協議会  
日時：4月24日(金) 受付 19:00～21:00  
場所：「サンライフ玉野」(玉野総合文化センター前)

## 次期ガバナー補佐報告 藤田 尚徳 次期ガバナー補佐

3月24日にIMの合同準備会を岡山丸の内RCの方と、ホテルグランピア岡山にて行いました。出席者は東川次期会長、榎田次期幹事、富永会員と私とで出席致しました。岡山丸の内RCからは11名参加され、総数15での会議となりました。大卒の取り決めとして、

2010～2011 IM開催日程  
日時：平成22年1月31日(金)  
場所：ホテルグランピア岡山

という事に決定しました。又、当クラブの役割分担につきましては、パネルディスカッションと特別講演の講師の方の段取りをするという事で承りました。詳しくは、案としての役割分担表をお配りさせて頂いておりますので、ご覧になって下さい。又、次回は玉野で合同準備会を行う事になると思いますので、その時はご協力をお願い致します。

## 委員会報告

- ・ハイロー会(谷口ハイロー会幹事):3月29日に127回ハイロー会を東兎が丘MHで行わせて頂きます。多数のご参加頂きましてありがとうございます。もう一点ですが、「エコライフ玉野」様よりご講演のご依頼が届いております。理事会でご相談の上、皆様方にご案内をさせて頂こうと思っております。
- ・石川君:前回、「近畿玉野会」についてのご案内を配布させて頂きました。第一回(4月17日)の前打ち合わせという事で、市長、市議会議長が今晚、大阪に行かれることになっております。今後の玉野と近畿にご在住の玉野出身の方々の交流をより一層強くして、地域発展に貢献しようという事ですので、ご賛同いただける方々のご出席、ご紹介の程引き続き宜しくお願い致します。

## スマイル・ボックス

- ・三宅(孝)君 - 高橋(秀)様大変お世話になりました。
- ・島田君 - 安江会員様、心良く受けて頂きありがとうございます。
- ・立石君 - 石川会員、新入社員研修会ありがとうございました。 本日早退。
- ・富永君 - 石川さんお世話になりました。 三宅(保)さん、いつもお花をありがとうございます。
- ・岡君 - 石川さん、娘がお世話になりました。
- ・谷口君 - 本日、卓話をさせて頂きます。
- ・石川君 - 「近畿玉野会」と私事を少しお話しさせて頂きます。
- ・小野田君 - 結婚記念日。 ・安江君 - 結婚記念日。
- ・渡邊君 - 公害審査会の為、早退致します。(第4回) ・東川君 - 例会早退。

## プログラム 「識字率向上月間に因んで」 谷口 康則 社会奉仕委員長

今月が識字率向上月間という事でお話しをさせて頂きます。

単純に識字というものが「字が読める」とかいう次元のものではなく、今の段階では「読める」だけではなく、読んだ物に対して「理解」して色々な事に役立てていく事が「識字率の向上」であると理解しております。ここでは、私の認識での説明ではなく、「ロータリーの友」に掲載されていた文章を使わせて頂いて、説明させて頂きます。

(ロータリーの友・2009・VOL.57・NO2・38ページ「解決策はCLEにあった」、40ページ「CLEの始まり」をご朗読されました。紙面の関係上割愛させて頂きます。ご覧下さい。会報委員会)

そういった中で、日本での識字率という事はどうなのだろうと調べたところ、「江戸時代の識字率」という文献がございましたので、お話しさせて頂きます。

### 寺子屋と識字率の深い関係

江戸幕府はキリシタン禁制を徹底する為、天領・諸侯領の区別無くその領民に対して宗門改めを行い、その

有効な方法として、寺請（てらうけ）制度を確立した。これによって全ての住民は「檀家」として「檀那寺」に世襲的に帰属する事を強制された。宗門人別長には戸主の名・年齢・妻の実家・結婚年月日・子の生年月日等が記されて檀那寺から宗門改役人に提出された。寺は今の市町村役場の住民課にあたり、戸籍・住民票・諸証明書を管理発行する。寺の住職は人々の日常生活の根底に関わり、幕府はこの寺請制度を通じて確固とした支配体制を築いた。寺の住職は、仏事とは無縁のこうした庶務を幕府に押し付けられたが、同時に衣食住の全てから、寺の修復まで檀家に寄付してもらおう特権を保障された。同時に町民・農民に対する教導者として位置付けられたのである。庶民の子は檀那寺の寺子である。寺の本堂に寺子を集めて読み書きを教えたのが寺子屋の始まりである。ここに庶民の学習の場が出来た。

#### 学ぶ事の必要性

江戸幕府は開府以来、通貨制度・全国の交通網の整備に注力し広域経済圏が確立した。貨幣経済が定着し、商取引が活性化する。現金取引なら領収証、掛け売りなら売掛長、貸し借りには証文をやりとりし、手形も流通した。こうなると、「読み書きそろばん」が出来ない事には社会生活が成り立たない。丁稚奉公や女中奉公でも「読み書きそろばん」は最低不可欠の採用条件となり、読み書きできるかは死活問題となった。そのため親は食べる物を節約してでも「学校」に通わせた。

その学校は江戸の初期には「寺にある寺子屋」であったが、やがて浪人が自宅に開く寺子屋に通わせるようになる。寺小屋自体が私塾であるが、当時「私塾」と呼ばれたのは「読み書きそろばん」を超えた上級学校であった。私塾は比較的余裕のある家の子弟を集めたが、その生計は生徒の月謝ではとうていまかなえず、経済的には厳しかった。近江の中江藤樹、伊勢の本居宣長なども私塾を営んでいたが、私塾は師匠の教育への情熱によって運営され、学習意欲の盛んな子弟に支えられた充実した教育機関であった。

最後にユネスコの統計上の識字率（総成人人口 15 歳以上に対して）を調べると、2000 年でアフガンが 36.3%、バングラデッシュで 40.8%、ネパールで 41.4%、パキスタンが 43.3%、中国が 85%、インドネシアは 87% という識字率になっております。「ロータリーの友」の資料は新しく更新されておりますので、現在は、それ以上に上がっております。そういった様に、アジアには非識字率の高い国がまだまだ多いという事です。ちなみに日本は識字率が 99.98% であるという事も素晴らしい事であると思っております。

終わりになりますが、ロータリーが子供たちに本を贈るといったプロジェクトが沢山ありますが、もらっても読む事が出来ない子供たちがいるという事も考えて頂きまして、読めない本を送る前に、読める子供たち、人々を読めるようにしてあげる活動が大事ではないかと思っております。今後ともこういった活動にご尽力を頂きますように宜しくお願い致します。